

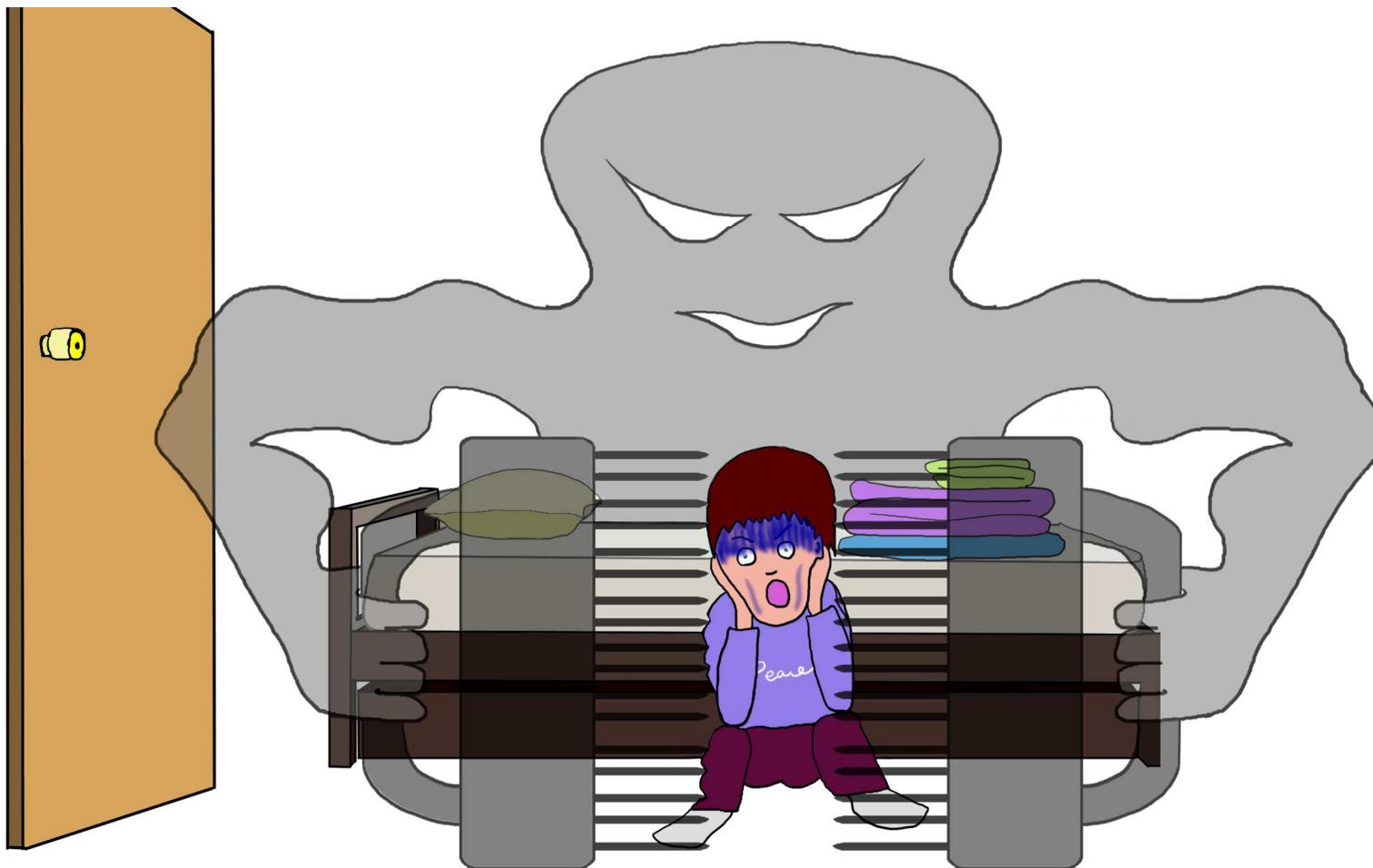
常住死身

Memento mori



東郷 潤

あるところに、臆病な人がいました。人も怖ければ、闇も怖い。失敗も怖ければ、死ぬことも怖い。何もかもが怖くて仕方がありません。



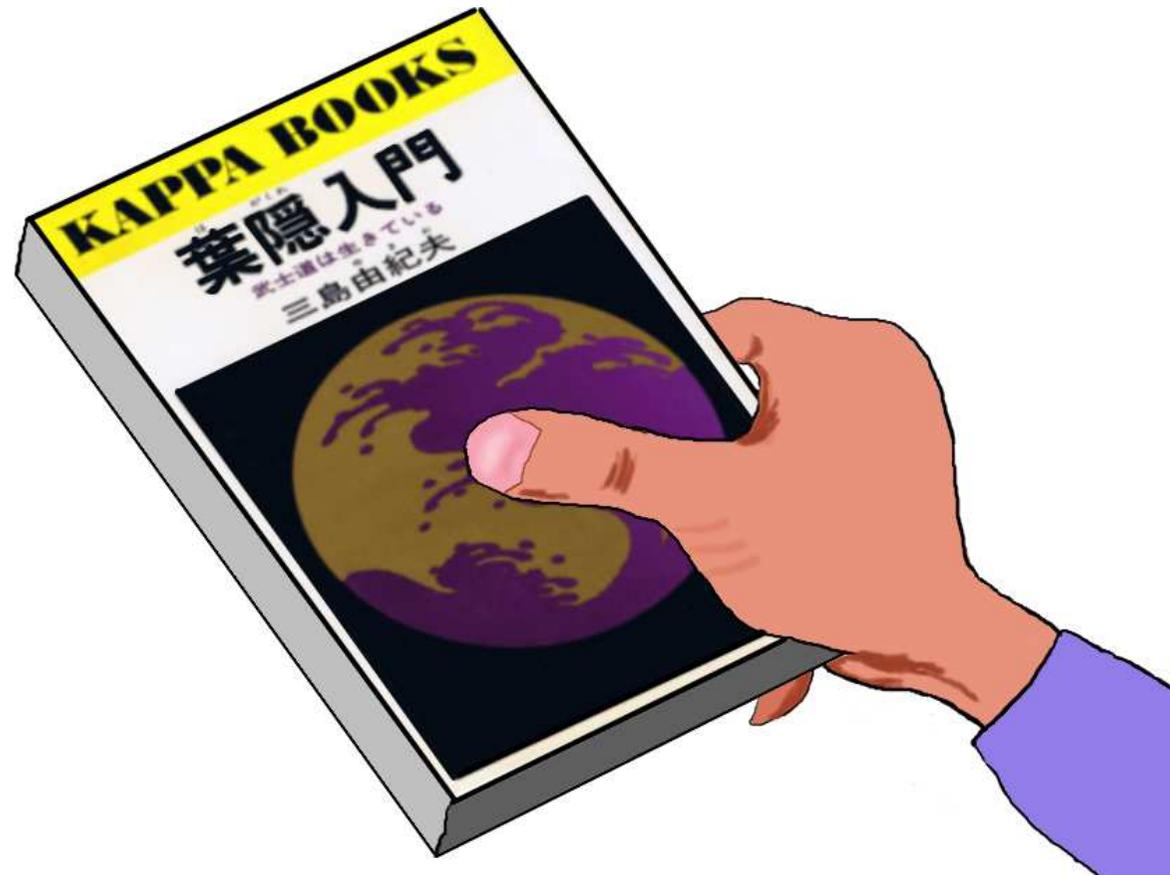
ああ、ど、どうすればいいんだ？

彼は自分を守ろうと、武器をたくさん集めてみました。・・・でも、怖さは一向に納まりません。



ああ、こんなじゃ、ダメだ。
どうすればもっと強くなれるんだ？

藁をもつかむ思いで、彼は1冊の本¹を手に入れました。



それはサムライの本でした。強くなって、少しでも恐怖を減らすための、ヒントが欲しかったのです。

¹ 「葉隠入門」三島由紀夫著（原文は山本常朝著）カバーデザイン田中一光 光文社。三島氏の割腹自決3年前に出版されたもの。

そこには思いもよらぬことが書いてありました。(次頁 筆者注をご参照下さい)

武士道といふは、死ぬ事と見付けたり。
二つ二つの場にて、早く死ぬほうに
片付くばかりなり。

別に仔細なし。胸すわって進むなり。
図に当たらぬは犬死などといふ事は、
上方風の打ち上りたる武道なるべし。

二つ二つの場にて、図に当たることの
わかることは、及ばざることなり。

我人、生くる方がすきなり。
多分すきの方に理が付くべし。

若し図にはづれて生きていたらば、腰抜けなり。
この境危ふきなり。図にはづれて死にたらば
犬死気違なり。恥にはならず。

これが武道に丈夫なり。
毎朝毎夕、改めては死に改めては死に、
常住死身になりて居る時は、武道に自由を得
一生越度無く、家職を仕果すべきなり。

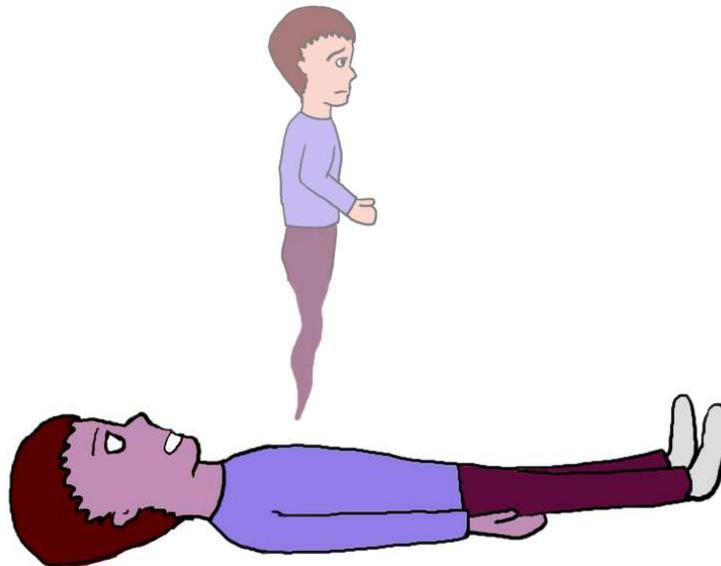


びっくりしました。死ぬことは、悪いことではないのでしょうか？ しかもそれが犬死であって
も！？

筆者注

葉隠入門 P. 178より引用	意訳（葉隠入門の笠原伸夫氏と原本現代訳の松永義弘氏の訳を参考に、筆者が意訳したもの）
<p>武士道といふは、死ぬ事と見付けたり。二つ二つの場にて、早く死ぬほうに片づくばかりなり。別に仔細なし。胸すわって進むなり。凶に当たらずは犬死などといふ事は、上方風の打ち上りたる武道なるべし。二つ二つの場にて、凶に当たることのわかることは、及ばざることなり。我人、生きる方がすきなり。多分すきの方に理が付くべし。</p> <p>若し凶にはづれて生きたらば、腰抜けなり。この境危ふきなり。凶にはづれて死にたらば、犬死気違なり。恥にはならず。これが武道に丈夫なり。毎朝毎夕、改めては死に改めては死に、常住死身になりて居る時は、武道に自由を得、一生越度無く、家職を仕果すべきなり。</p>	<p>武士道は、死ぬことだと見つけた。生死の選択の場で、早く死ぬ方を選ぶというだけのことだ。何も難しいことはない。腹を据えて進むだけだ。</p> <p>思い通りの結果にならなければ犬死などというのは、上方風の思い上がった武士道だ。生か死かという選択の場で、思い通りの結果が得られるかどうかなど分かるはずもない。人は、生きる方が好きなもの。きっと好きな方に理屈を付けることだろう。もし思い通りの結果にならずに生き残ってしまったら、腰抜けとなる。ここの境が危ないのだ。もし思い通りの結果が得られず死んだならば、それは犬死の気違いとなる。しかしそれは恥ではない。</p> <p>この境を知ること、武士道をしっかりとしたものになる。毎朝毎夕、死の覚悟を新たにし、常に死身になっている時は、武士道で自由の境地を得て、一生あやまちなく、職務をまっとうすることが出来るだろう。</p>

騙されたと思って、本に書いてあった「毎朝毎夕、改めては死に」を試してみました。つまり、自分の死を想像し、それをなんとか受け入れようとしてみたのです。

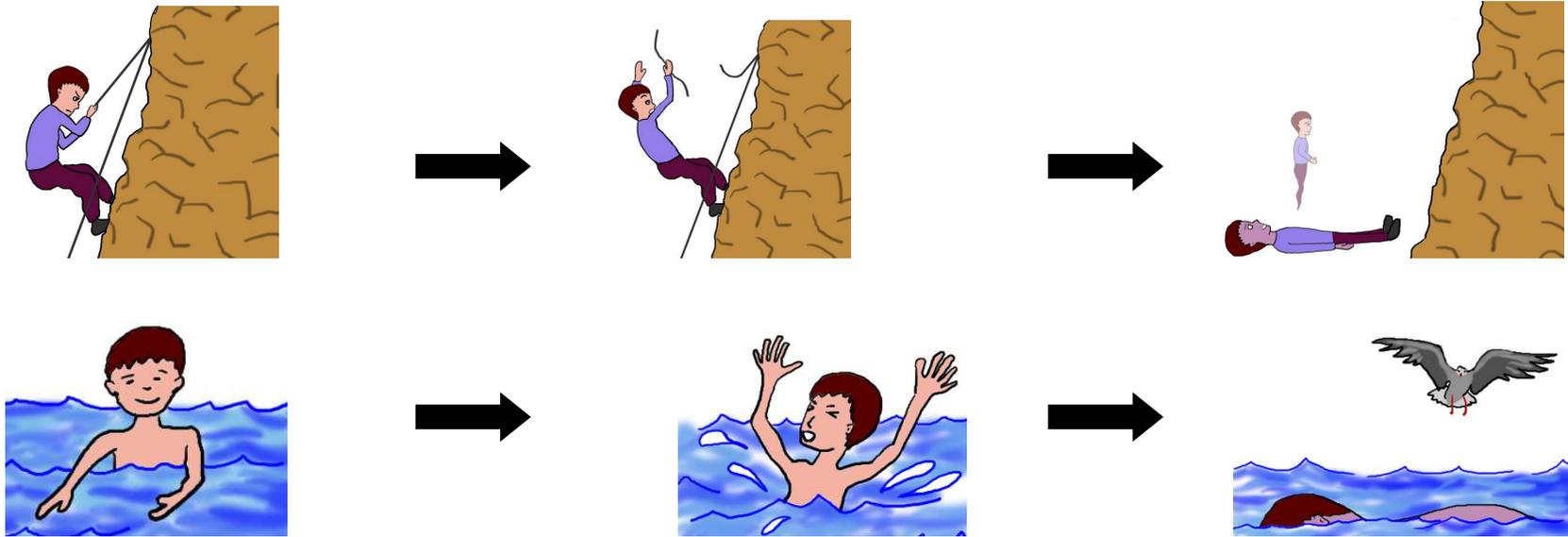


すぐに恐怖が襲ってきました。

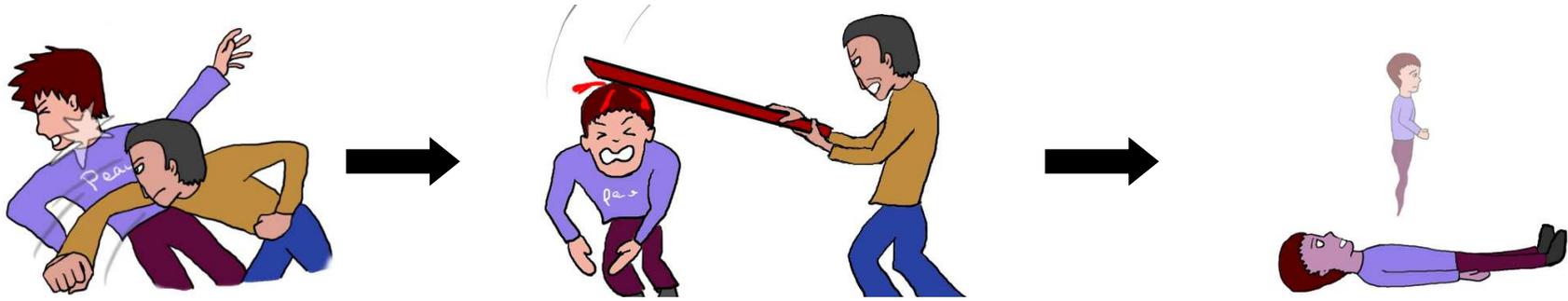


ああ、怖い！

しばらく何も考えずに震えていると、少し落ち着きました。・・・そこで再び自分の死を想像しました。色々なパターンの死を出来るだけリアルに、です。



ああ、怖い！



ああ、怖い！

もしこのまま恐怖のあまり狂い死にするなら、それでも構わないと思ったのです。いつまでも怯えて過ごすことには、もう、うんざりでした。²



²心が納得するには、時間が掛かるものです。このエクササイズに限らず一般に心のエクササイズは、少しずつ自分のペースで時間を掛けて行なうことをお勧めします。なお折に触れ、鏡を覗き込み自分の目を見ることは、自分の状態を客観視出来るので、正気を保つために大変有効な方法です。なお絵本「人命は何よりも大切だから」でも同じ死の想像をしています。その目的が異なれば、結果は全く異なるでしょう。

どれくらい時間がたったでしょう？ ……まだ発狂してはいないようです。

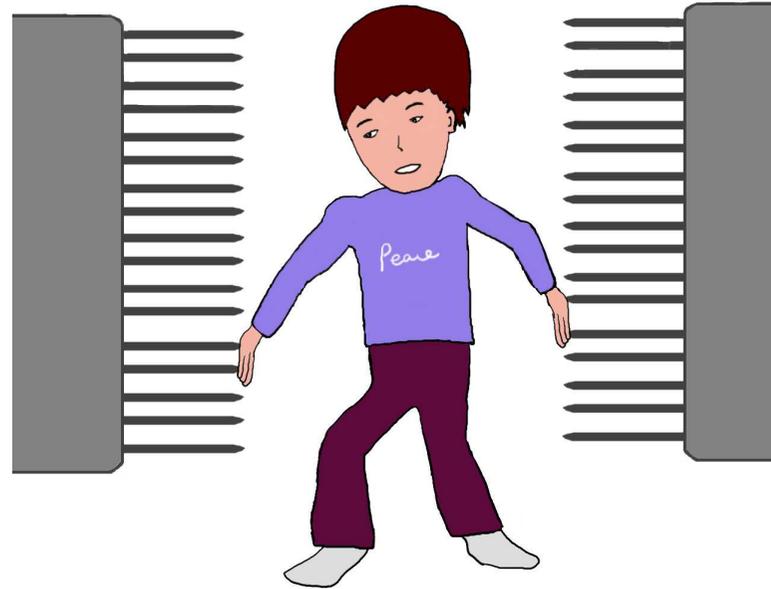


**死ぬ前に、部屋の掃除
でもしておくか。**

……ふと、気づきました。自分が死をすでに受け入れていることを。

生きている人間は全員、死ぬ。

それって当たり前のこと。



**何かに挑戦して失敗して
も、最悪死ぬだけ。**

どうってということはない。

犬死かどうかは、生きている

人間が判断すること。

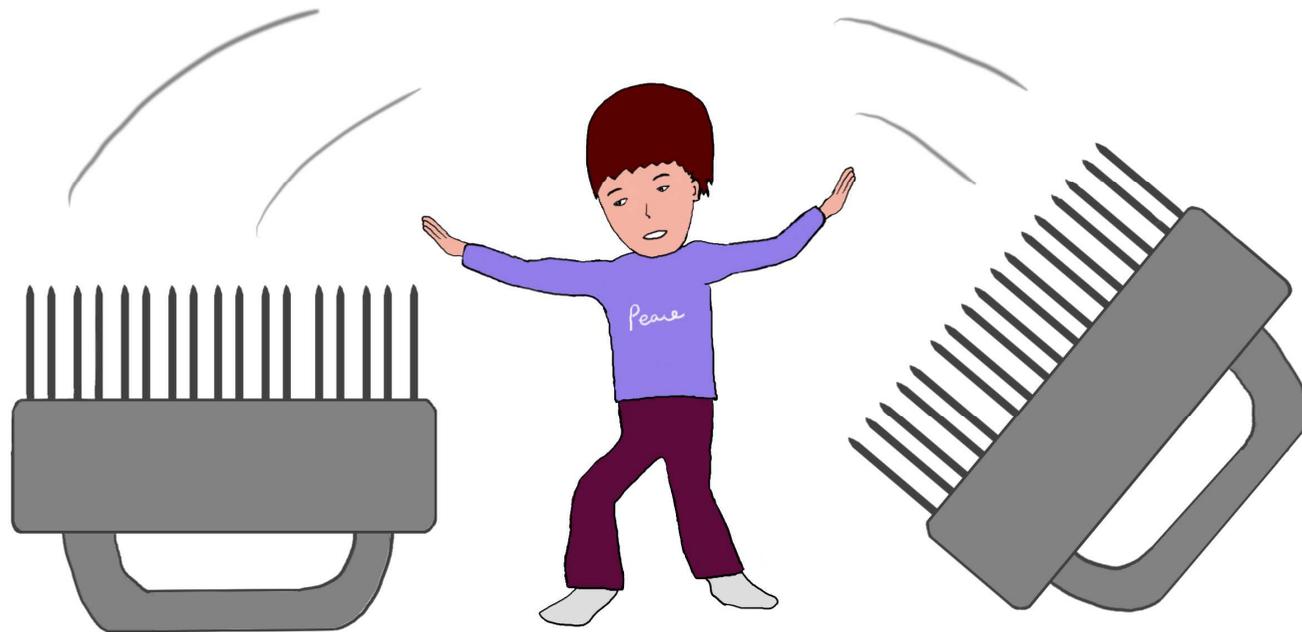
死者にはそんなの、関係ない。

どんなに辛い現実も死ねば終わる。

怖がることはない。

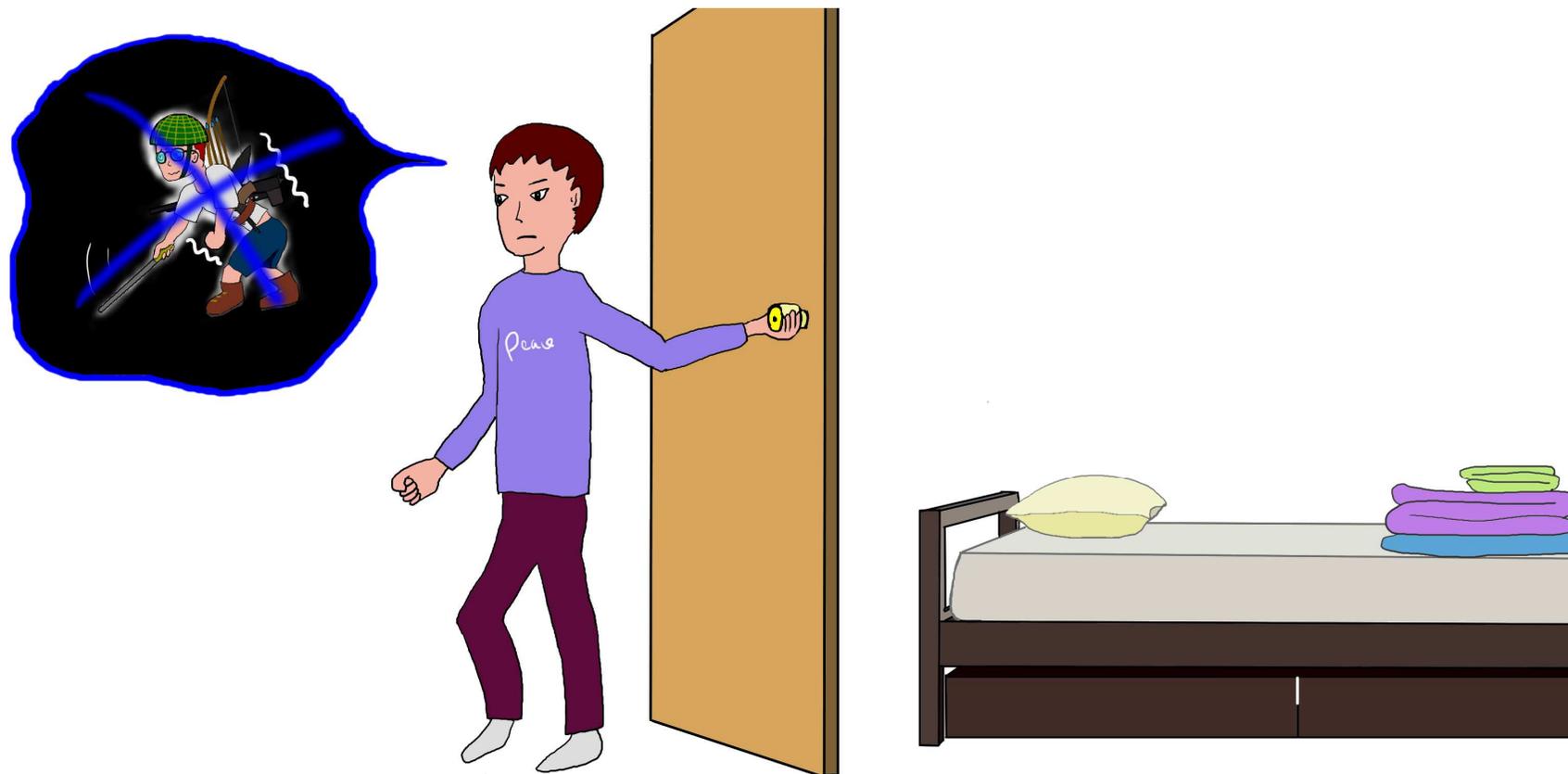
僕は死ぬ。

それまで精一杯、楽しむか。



俺、なんだか自由だ・・・

急に、真っ暗な夜道を散歩したくなりました³。とても怖かった闇の中で、自分が冷静でいられるかどうか、試してみたくなったのです。



彼はたくさんあった武器を家に残し、家を出ました。

³絵本「怯える人々」をご参照ください。

闇の中を歩き始めました。



あ、白いものが飛び出しました。お化けでしょうか。殺されるかも！

・・・ま、殺されても死ぬだけですけど。

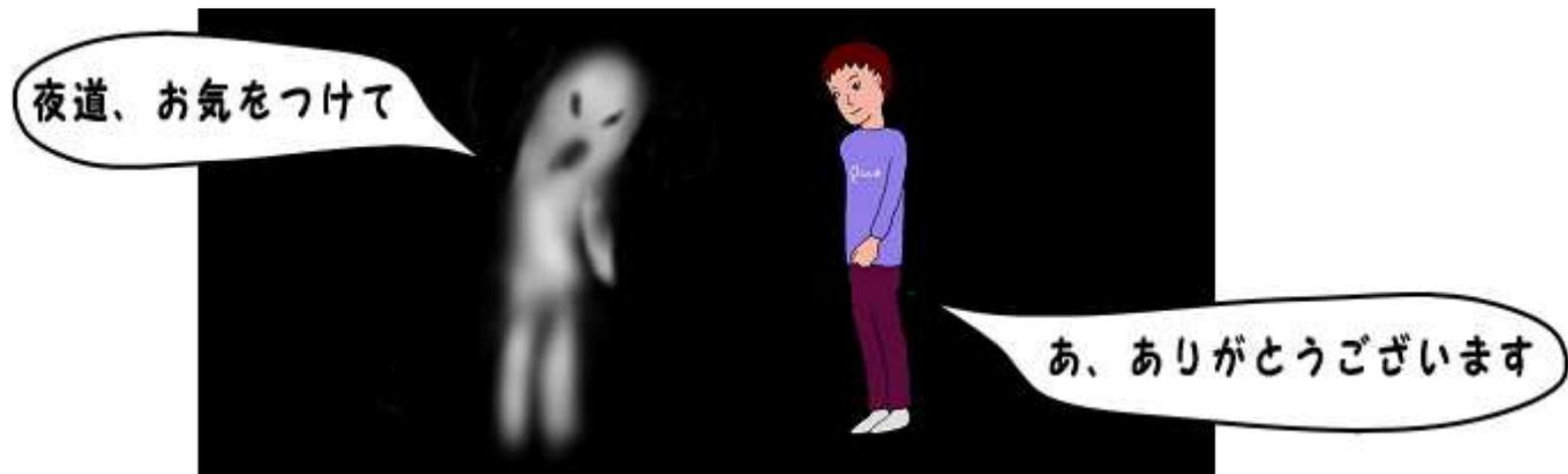


白い影は、人間でした。

再び、闇の中を歩き
始めました。

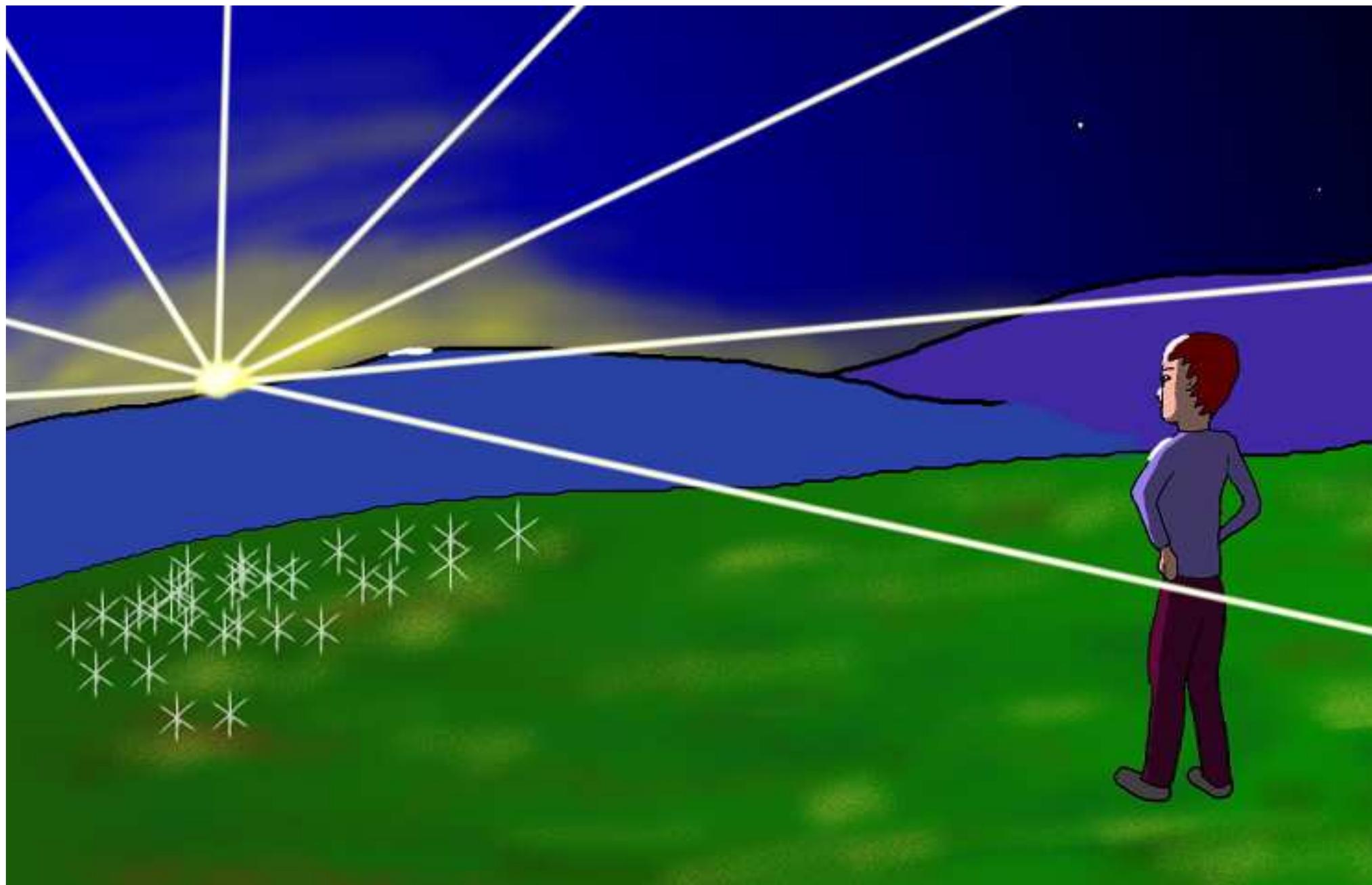


再び、白いものが飛び出しました。怪物でしょうか！？



白いものは、人間でした。

夜が明けてきました。



あとがき ー絵本「常住死身」

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2012